産業と環境が共生するまちへ

環境の活きづくまちは美しい

明治時代、紡績工場の開業で工業都市としての第一歩を踏み出した尼崎。大正から昭和にかけては重工業都市として発展し、戦後にはわが国の高度経済成長をリードしてきました。創業100年を迎えた長寿企業も多く、さまざまな分野の産業が尼崎のものづくりを支えています。
また、市民や企業とともに地域資源や人のつながりを活かした環境のまちづくり活動が広がっており、産業界からの提案を受けて「ECO未来都市あまがさき」を宣言しました。「高い技術力・生産力」「コンパクトな市域・機能集積」「市民や事業者の高い協働意識」を活かす3つの基本方針に基づく取り組みが評価され、平成24年度には国から「環境モデル都市」に選定されました。尼崎市では、いろいろな立場の人たちがつながりながら、環境や自然のためにできることを考え、実践しています。

環境モデル都市 あまがさき

地元企業も環境に取り組む！

あましん緑のプロジェクト「植樹祭」

地元企業である尼崎信用金庫では、環境保全活動に積極的に取り組むため「あましん緑のプロジェクト」を立ち上げ、「尼崎21世紀の森づくり」に協力するほか、環境改善に寄与する地域の優れた技術やアイデアなどを表彰する「あましんグリーンプレミアム」を実施しています。

あましんグリーンプレミアム授賞式

尼崎 21 世紀の森の未来予想図

100 年かけた森づくり

尼崎臨海地域の約1,000ヘクタールで、地元で採れた種から育てた苗木を植えてつくる尼崎21世紀の森。
植樹イベントなど多彩なイベントも開催。開放感いっぱいの大芝生広場も人気です。

森づくりの様子

兵庫県下最大級のコスモス園

一時は荒れ果てていましたが、ボランティア団体「髭の渡し花咲き会」が立ち上がり、見事なコスモス園に生まれ変わりました。毎年9月初旬に種をまき、10月下旬から11月中旬にかけて、約550万本のコスモスがあたり一面を彩ります。

コスモス園の魅力

武庫川髭の渡しコスモス園

夏の風物詩・ホタルを尼崎で

昭和30年ごろまでは市内でも見ることができたホタルを蘇らせようという活動が実りました。西武庫公園や農業公園で、ホタルを鑑賞することができます。

ホタル蘇りへの想い

あまがさきエコクラブ

限りある資源を大切にしようと尼崎青年会議所のメンバーを中心に設立。再生資源でつくられたトイレットペーパー「エコあま君ロール」のキャラクターは、尼崎市出身・在住の漫画家・尼子騒兵衛さんのデザイン。

あまがさき環境オープンカレッジ

尼崎を愛し環境を思う人が出会い、ともに学び、実践へのきっかけをつくる場として設立。夏の「打ち水大作戦」には、毎年多くの人たちが参加します。

Topics 尼崎の市外局番が、大阪じゃないのに「06」のワケ

尼崎で最初の大工場・尼崎紡績（現・ユニチカ）が、明治時代に大阪電話交換局の特別加入区域として市内初の電話を設置。戦後は複数の電話局番が混在していましたが、特に大阪との経済的な結びつきが強かったため、市や商工会議所などが国へ陳情し、「06」になりました。尼崎紡績の初代社長の妻が、NHKの連続テレビ小説「あさが来た」の主人公のモデルとなっており、市内のユニチカ記念館には多くの来場者が訪れます。

ユニチカ記念館

Topics 産業が結んだドイツとの国際交流

世界で初めてディーゼルエンジンの小型実用化に成功した「ヤンマー株式会社」の創始者・山岡孫吉さんが、ディーゼルエンジンを開発したディーゼル博士を顕彰するため、ドイツ・アウクスブルク市に日本石庭苑を寄贈した縁で、昭和34年4月に主力工場がある尼崎市とアウクスブルク市の間で、日本・ドイツ間初の姉妹都市提携が結ばれました。

神崎工場（現・尼崎工場）前で竣工記念撮影